

《調査報告》

大学生の古典力調査報告Ⅷ

～平成 27 年度横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程 1 年次生の古典に関する関心度調査～

安野 葵

はじめに

平成 23 年度に小学校へ古典教育が導入されてから、今年度で 6 年目を迎えた。現在の小学校第 6 学年は、第 1 学年のころから古典を学んでいることになる。(本稿で扱う調査は平成 27 年度に実施しているため、調査時において第 1 学年から古典を学習している児童は、小学校第 5 学年にあたる。)

このような中で、小学校教員には著名な古典作品についての知識を最低限持っていることが求められるが、現在の教員志望の学生は古典をどの程度理解し、どのような意識を古典に対して抱いているのであろうか。

本稿は、教員志望の学生たちが積極的に古典に関わっていく姿勢をもてるよう支援することを目的に発足をした「古典教育デザイン研究会」(主宰:横浜国立大学教授 三宅晶子、HP : <http://kotened.webcrow.jp/>) が実施した、大学生の古典力に関する調査の第 8 回目の報告である。

本調査は平成 27 年度横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程 1 年次生必修科目である「小教専国語」受講生 218 名(春期:117 名、秋期:101 名)を対象に行った。

1、アンケートの概要

本調査は大問 I 「実力テスト」、大問 II 「古典作品や授業に関する意識調査」の二部構成となっている。調査に用いた質問紙は、論文末の添付資料の【資料 1】を参照されたい。なお、設問は前年度の調査で使用したものと基本的には同様である。(異なる箇所については適宜示す。)

大問 I は 5 つの小問 (A~E) から成り、そ

れぞれ以下に関する問題を出題した。

A : 『竹取物語』(計 6 題)

B : 『おくのほそ道』(計 10 題)

C : 『俊頼髓脳』(計 4 題)

D : 『徒然草』(計 7 題)

E : 季語に関する問題 (計 14 題)

旧暦の名称に関する問題 (計 22 題)

大問 II における意識調査の概要は以下の通りである。

【一】大問 I の各問題 (A~D) の作品についての既読状況の調査。既読の作品については「いつ、機会、方法、感想」を併せて調査。

【二】小学校教科書に掲載されている古典文学作品について、既読状況とその程度の調査。

【三】古典文学・漢文学について「好き嫌い」の意識調査。

【四】小学校、中学校、高等学校、予備校・学習塾のそれぞれで受けた古典の授業に対する不満点の調査。

【五】小問【四】にて挙げたそれぞれの校種の古典担当の教師に求められている力についての調査。

【六】自分が古典の授業を担当することになった際に不安な点の調査。

【七】今後、古典の授業を自信もって行うために開催してほしい講座や支援してほしい内容についての調査。

※本調査は成績等には無関係であると断った上で、学籍番号を明記してもらった。

2、実力テスト結果の傾向及び特色

本章では大問 I の結果について見ていく。

各問題の内容、形式、正答率を表で示した上で、主に正答率の低い設問について分析と考察を行う。なお、正答率に関しては春学期と秋学期を合算した通年の数値を示す。

I-A:『竹取物語』

本文の出題箇所は倉持皇子が偽りの冒険譚を語る場面である。昨年度は物語冒頭部を掲載していたが、難易度をあげるために今年度は削除した。結果は表1の通りである。

表1

問題番号	内容	形式	正答率
一・ア	作品名	記述	45.0%
一・イ	成立時代	記述	64.2%
二	現代語訳	選択	92.2%
三	現代語訳	記述	22.5%
四	現代語訳	選択	59.6%
五	内容把握	選択	26.6%

物語冒頭部を掲載しなかったことにより、作品名の正答率が昨年度の96.6%から41.9%へと大幅に下がった。

『竹取物語』冒頭部は中学校での古典入門として多く扱われ、授業の中で暗唱させる場合が多いようである。このため、物語冒頭部の認知率は非常に高いことが昨年の結果からもわかる。これは教育の成果と言えるであろう。しかし、今年度の結果からは、馴染みのある著名な作品であっても、冒頭部以外の物語内容は生徒にあまり定着していない実態を指摘することができる。

問三・問五の設問に対する正答率の低さは、昨年度の報告¹と同様である。問三は「何とか申す」を現代語訳する間で、解答の傾向は昨年度の分析結果と同じく、「申す」の謙讓の意味を反映させずに「言う」と訳す学生が多かった。

問五は、倉持皇子が「いとわろかりしかども」と述べた理由に関する問である。正答率は昨年度と全く同じであった。「わろし」とは、

「いろいろな物事に関して、価値の低いことを表し」、「あまり上等・上質ではないという程度の意で使われることが多い²」語である。まずこの語句の意味を理解した上で、倉持皇子の心情を捉えなければならない。

誤答の状況として、ウ「珍しい枝であることをぜひとも強調したい」が25.7%と、正答と同程度に選ばれていた。このことから、「わろし」の意味を正しく把握できていないことが、正答率の低さの一因として挙げられるのではなかろうか。

また、誤答の中で一番多かったのは、エ「勝手に折ったので、その土地の人たちに申し訳ない」の35.3%で、正答率を上回った。この場面では、何としてもかぐや姫と結婚したいがために、偽の「蓬莱の玉の枝」を用意した上で、架空の冒険譚をいかにも事実であるように工夫して語る倉持皇子の複雑な心情を読み取らなければならない。選択肢を選ぶ際には、皇子が架空の冒険譚の締めくくりとして、苦労して手に入れたと言う「蓬莱の玉の枝」について、姫にどのように伝えるのかという点を考える必要がある。これらを考慮すれば、エの選択肢が場面にそぐわないことは明らかである。

しかし、以上のような誤答の状況・正答率の低さには、出題の仕方にも大きな原因があったと考える。問題文にリード文など記すことなく、いきなり倉持皇子の冒険譚を掲載したため、倉持皇子が「誰に」「何のために」冒険譚を語っているのかが全くわからないのである。

人物の心情を捉えるには、他の人物との関係性や場面の状況などを考慮する必要があるため、来年度以降はリード文の掲載を検討していきたい。

I-B:『おくのほそ道』

昨年度は「那須の黒羽」を出題したが、今年度は定番教材でもある「平泉」を出題した。

結果は表 2 の通りである。

表 2

問題番号	内容	形式	正答率
一・ア	作品名	記述	33.9%
一・イ	作者名	記述	33.5%
一・ウ	成立時代	記述	35.3%
二	語句の意味	記述	89.9%
三・ア	作品名 (春望)	記述	15.6%
三・イ	作者名 (杜甫)	記述	28.9%
四(i)	内容把握	選択	83.0%
四(ii)・ア	敬意の種類	記述	56.9%
四(ii)・イ (a)	敬意の方向 (誰から)	記述	87.6%
四(ii)・イ (b)	敬意の方向 (誰へ)	記述	44.5%

「平泉」は昨年度の「那須の黒羽」よりも既習率が高いはずであるが、問 1 の正答率は昨年度とほとんど変わらない。既読率を確認すると、64.7% (添付資料 表 6) であり、昨年度の 19.5% から大幅に上がっていた。このことから、『おくのほそ道』の本文と作品名・作者名が結び付いていない人が多くいることがわかる。

本作品は紀行文であるため、その内容と作者には密接な関係がある。教科書には芭蕉の旅の工程がわかる地図が掲載されるなど、工夫が見られるが、生徒の印象には残らないようである。『おくのほそ道』は古典の定番教材でもあるため、教員にはその扱い方の工夫を求めたい。

また、今回の調査から、漢文の項目として、芭蕉が引用した杜甫の「春望」に関する問を設けたが、作品名・作者名ともに低い正答率となった。漢詩については著名な作品であっても、作者・作品名が定着していないことが明らかとなったため、今後改善が図られるべきである。

問四(ii)では敬語「はべり」に関する問を新設した。敬意の種類に関しては、「謙讓」か

「丁寧」の 2 択に絞られる問であるが、誤答の状況は「謙讓」が 16.5% に対して、「尊敬」が 21.6% とやや上回った。敬意の方向については、地の文で用いられているため、「作者から」であると捉えるのは容易であったと見られ、正答率は高い。しかし、誰に向けた敬意であるかという問に対する正答率はあまり高くなかった。(a) (b) どちらも正解した人は 42.7% にとどまっていることから、敬語に関する理解については課題があると言えるであろう。

I-C : 『俊頼髓脳』

昨年度は『歴代名画記』の「画竜点睛」を出題したが、今年度はより平易な文章として『俊頼髓脳』を採択し、「垣ごしに馬を午とはいはねども人の心のほどをみるかな」の歌論を抜粋した。結果は表 3 の通りである。

表 3

問題番号	内容	形式	正答率
一	語句の意味	選択	92.7%
二	内容把握	記述	82.6%
三	現代語訳	選択	76.1%
四	格助詞の識別	選択	87.6%

『俊頼髓脳』の既読率は 15.1% (添付資料 表 6) と非常に低く、解答者の大半が初めて目にする文章であったことが窺えるが、いずれの間も 7~9 割程度の高い正答率を記録した。「あやし」の語句の意味は現代語と異なるものの、正答が 9 割を超えている。基礎的な古語の定着、文章からの類推ができていることが窺える。

また、孔子が「馬」を「牛」とよんだ理由について答える記述式の問についても、8 割が正答している。主語が明確で簡潔な文章のため、内容理解が容易であったと見られる。

I-D : 『徒然草』

出題箇所は 19 段の冒頭部で、昨年度は掲

載していた作品名を今年度は削除した。結果は表4の通りである。

表4

問題番号	内容	形式	正答率
一	作品名	記述	9.6%
一	作者名	記述	7.8%
一	成立時代	記述	14.7%
二・①	語句の意味	選択	92.7%
二・②	語句の意味	選択	96.8%
二・③	語句の意味	選択	67.9%
三	内容把握	選択	85.8%

作品名の正答率の極端な低さから、古典の定番教材である『徒然草』であっても、19段は現場で扱われることがほとんどないことがわかる。

作品名の誤答状況としては『枕草子』が最も多く、27.5%を記録した。これに伴い、作者名・成立時代についても「清少納言」「平安時代」とする解答が多かった。このような結果は、授業の中で『徒然草』が教訓的な章段に偏って扱われていることが一つの原因としてあげられるであろう。季節の情感が語られる本文に、『徒然草』は結びつかず、「春はあけぼの…」と慣れ親しんだ『枕草子』を連想する学生が多かったのだと考えられる。

小学校から高等学校までの古典教育の中で、定番教材である『徒然草』の章段の採択・取り扱いについては、今後改めて検討されるべきである。

I-E①：季語に関する問題

次の季語に関する読みと季節を問う問題を計7問出題した。正答率の傾向に関しては昨年と同様で、結果は表5の通りである。

「蛩」「霧」「霞」など現代でも日常で用いる語に関しては読みの正答率が高い一方で、季節の正答率は軒並み低い。「薬玉」「東風」「野分」に関する正答率の低さも昨年と同様のため考察は省略するが、現代において失われつつある季節の感覚を豊かに持ち、古典作

品に親しむためにも、季語への理解はより一層重要視されなければならない。

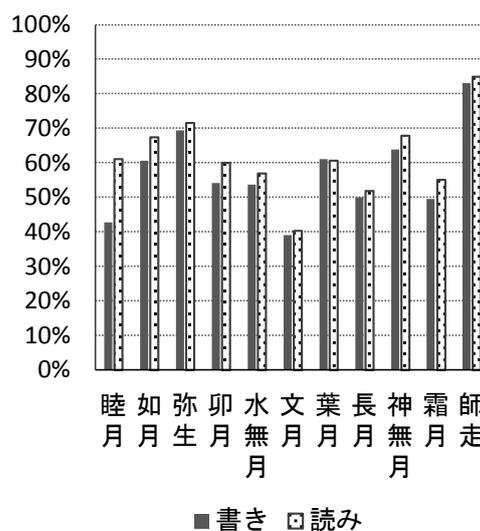
表5

問題	読み	季節
蛩	96.3%	74.8%
霧	92.2%	36.2%
霞	91.7%	69.3%
薬玉	25.2%	16.1%
東風	29.8%	36.7%
野分	31.7%	32.6%
五月雨	88.5%	74.3%

I-E②：旧暦の名称に関する問題 (P〇〇参照)

五月を「皐月（さつき）」と呼ぶような、旧暦の名称に関する問題(書き取りと読み取り)を出題した。結果はグラフ1の通りである。

グラフ1 旧暦名称の正答率



全問正解は218名中43名おり、昨年度(23名)・一昨年度(16名)の調査から増えたものの、大半が一部のみを記憶している状況に変わらない。7月の正答率の低さ、無回答率の高さについても昨年度と同様である。旧暦名称について、現場ではあまり重要視されていない、又は生徒が興味関心をもちにくいといった状況が窺える。古典常識として、早い段階から定着させていく必要があると考える。

3、アンケートの結果及び傾向

【一】

大問 I の各小問 (A~D) で挙げた作品について、どの程度読んだことがあるのかを調査した。既読の作品については「いつ、機会、方法、感想」を併せて調査し、既読者の中での割合を算出した。結果は表 6 の通りである。

		竹取物語	おくのほそ道	俊頼髄脳	徒然草
1	既読率	48.6%	64.7%	15.1%	30.7%
2-i	小学校	5.7%	6.4%	3.0%	3.0%
	中学校	48.1%	39.0%	9.0%	17.9%
	高校	44.3%	52.5%	84.8%	77.6%
	浪人	0%	2.1%	3.0%	3.0%
	大学	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%
2-ii	授業	87.7%	90.8%	57.6%	76.1%
	受験勉強	7.5%	9.9%	45.5%	20.9%
	趣味	2.8%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	1.5%
2-iii	原文	24.5%	26.2%	42.4%	35.8%
	注釈付	50.0%	53.9%	39.4%	47.8%
	現代語訳付	21.7%	19.9%	21.2%	16.4%
	現代語訳のみ	1.9%	0%	0%	9.0%
	その他	0%	0%	0%	0%
2-iv	面白かった	51.9%	37.6%	54.5%	47.8%
	つまらなかった	3.8%	9.2%	9.0%	9.0%
	普通	42.4%	53.2%	39.4%	44.8%

既読率について、『竹取物語』と『徒然草』は本来 8~9 割程度あるべき作品である。しかし、本アンケートでは設問に作品名を記載していないため、実力テスト内で作品名の記載の無い本文については、読んだことが無ければ作品名も分からないままに回答することになる。来年度以降の調査では、設問に作品名

を明記するなど、改善を図りたい。

【二】

小学校の教科書に掲載されている古典文学作品について、既読の状況を調査した。結果は論文末の添付資料のグラフ 2 の通りである。

昨年度と同様に、「桃太郎」「鶴の恩返し」「猿蟹合戦」「花咲爺さん」などの昔話や、中高の古典教材である『源氏物語』『枕草子』『平家物語』の既読率が非常に高く、いずれも 9 割を超えている。

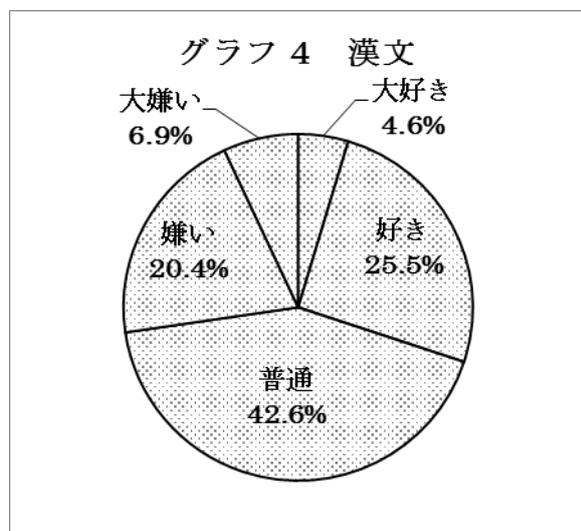
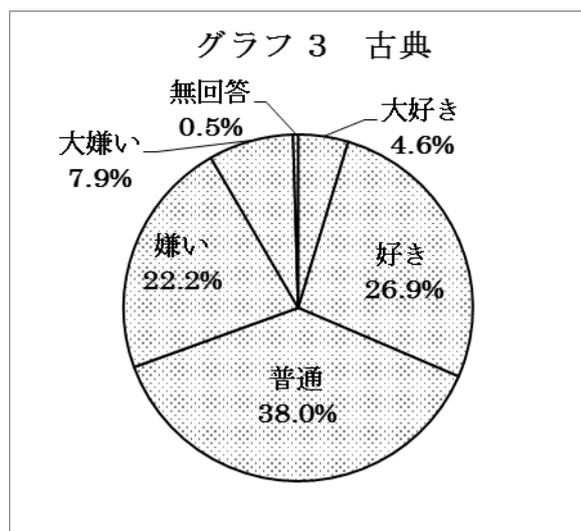
しかし、その内訳を見ると、「読んだことはあるが、内容はよく覚えていない」という回答率が、昔話は低いのに対して、古典教材では高くなっている。古典教材については、既読者の中で内容をよく覚えている人よりも、覚えていない人の方が多いという結果が得られているのである。

幼少期に知ったであろう昔話よりも、最近学んだはずの古典作品の方が記憶に残らないとは、どういうことであろうか。これは、限りある授業時間の中で、古典作品のごく一部分しか扱っていないことが原因であると考えられる。物語などの一部だけを学習し、全体像がつかめないうつてしまいうことで、作品への印象は薄れてしまう。

しかし、現場で一つの作品の全体を扱うことは非常に困難である。教師は教科書の中の世界だけを伝えるのではなく、作品全体の特徴などを把握した上で、児童生徒に補足的な説明を行うことが必要であろう。

【三】

古文、漢文のそれぞれについて、好き嫌いの意識調査を行った。選択肢は「大好き、好き、普通、嫌い、大嫌い」である。結果は次頁グラフ 3・4 の通りである。



古文・漢文ともにこれまでの調査と変わらず、好き嫌いの比率に差はほとんどないと言える。昨年度の報告でも言及があったが、「普通」と答えた4割程度の方は、授業の在り方によって、「好き」にも「嫌い」にも変化する可能性を持っている。古典を教える教員の裁量が問われていることは言うまでもない。

【四】

各時代に受けた古典の授業で、不満に感じた点を調査した。受講者には不満点について優先順位をつけてもらったが、2位以下を記入した学生が1割に満たなかったため、優先順位はグラフに反映させていない。結果は添付資料のグラフ5の通りである。これも昨年度と同様の傾向が見られた。中学・高校になって「文法、語法ばかり」「暗記ばかり」の2項目の回答率が高くなる。これらを不満に感

じるのは、文法の学習や古語などの暗記が、古典作品を楽しむことや、読みを深めることに活かされなかったからであると考えられる。現場では文法を知ることが目的化してしまっているのではなかろうか。古典を読むため、より楽しむために文法を学ぶという実感を、児童生徒に持たせるような授業の在り方を求めたい。

【五】

それぞれの校種の古典担当の教師に求められている力についての調査を行った。結果は添付資料のグラフ6～9に示す。

昨年度と同様に、小学校教員には「朗読が上手」であること、「古典作品が好き」であることが多く求められ、中学・高校になると「古典作品に対する知識が豊富」であること、「文法を詳しく教えられる」ことが求められている。予備校に関しては全体的に昨年度よりも回答率が上昇しており、学校の授業で足りない部分を予備校で補おうとする意識の高まりが垣間見える。

【六】

実際に教師として古典の授業を行う際に不安に思うであろう点を選択肢としていくつか挙げ、あてはまるものを選択してもらった。結果は表7の通りである。

表 7

不安な点	割合
古典作品をあまり読んでいない。	56.9%
そもそも古典が好きではない	33.5%
文法がよく分からない	32.6%
世界観がよく分からない	11.0%
古文を声に出して読むのが苦手	6.9%
その他	3.7%

これまでの調査と同様に、「古典作品をあまり読んでいない」点を不安に感じる人が一番多い。古典作品を読むということは、古典に関する知識を増やすということにもつながっている。高校までの授業では、古典作品に触れる機会が少なく、知識もあまり身につか

かったと実感しているであろう学生が、過半数いる点は看過できない。

昨年度二番目に多かったのは、「文法がよくわからない」であったが、今年度は僅差で「そもそも古典が好きではない」が上回った。古典に対する学生の消極的な姿勢が窺える。

【七】

【六】を踏まえ、今後、古典の授業を自信を持って行うために、開催してほしい講座や支援してほしい内容について記述してもらった。多く挙げられた意見を以下に記す。

(1) 教師としての知識・教養について

- ・著名な古典作品の概要、世界観、時代背景や作品成立の背景などの知識を得たい
- ・文法の復習、丸暗記ではなく覚える方法を知りたい
- ・古典を面白いと感じ、好きになれるような講座を受けたい
- ・内容を楽しみながら、様々な作品に触れたい

(2) 授業の方法について

- ・古典を楽しく、好きになれるような授業の方法を知りたい
- ・丸暗記でなく、文法を楽しく教える方法を知りたい
- ・小学校の古典の授業はどのように行われているのか知りたい

古典を教えるために、まずは自分自身が古典作品や文法の知識を身につけたいと感じている人が多いことがわかった。また、古典の面白さを知り、好きになりたいと感じている人が多い。高校までの教育の中では、古典の面白さを感じることができなかった人が多いのである。自身が古典の授業を楽しみと感じた経験を持たないために、「楽しい古典の授業」をイメージすることができないようである。このままの状態では教師になってしまっただけでは、児童生徒に古典の魅力を伝えることはできないであろう。古典の授業の方法といった技術的な面ではなく、まずは教師、又は教師

を目指す学生の古典に関する興味関心を高めるための支援が必要である。

おわりに

本学の教員養成課程1年次生必修科目である「小教専国語」の中で、古典の講義は1回（本調査の回を含めると2回）である。これは、小学校の国語の授業で古典が扱われる割合を考えれば、妥当な回数と言える。しかし、扱う回数は少なくとも、児童生徒が古典に親しみを持てるような授業を行うには、多くの知識・教養が必要である。古典を教えるために、「多くの作品に触れ、知識を増やしたい」「古典の面白さを知りたい」と感じている学生にとっては、物足りない回数であろう。

本学の教員養成課程の中で、国語専攻に進むことができるのは、20名程度である。その他の学生が、じっくりと古典に触れ、知識・教養を身につけられるような機会が求められる。教師になる上では、独力で教材研究をし、知識・教養などを身につけていく必要があるが、その原動力となる「古典の魅力・面白さ」について、学生が自ら感じられるような支援・講座の在り方を模索していきたい。

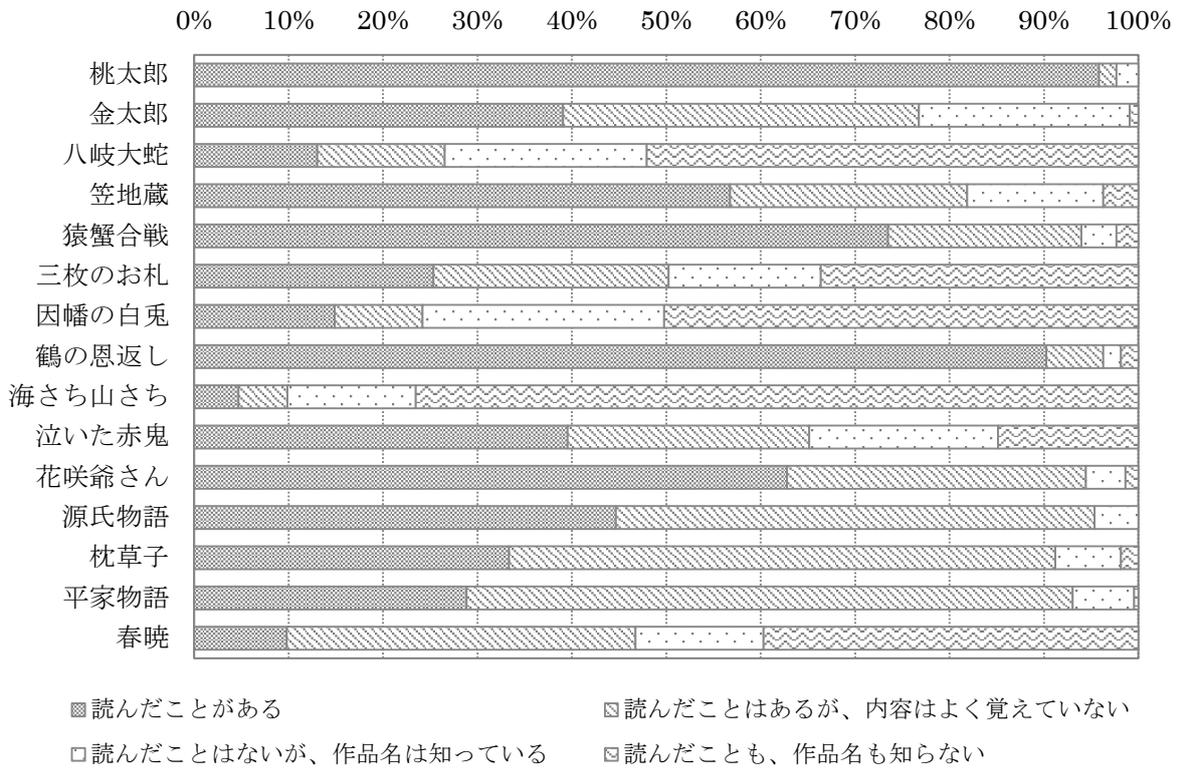
なお、本調査は、科学研究費基盤研究(c)「中等国語科教員に必要な「古典力」育成のための教育プロジェクトと開発」(代表 三宅晶子)の事業の一環である。

(横浜国立大学大学院 教育学研究科)

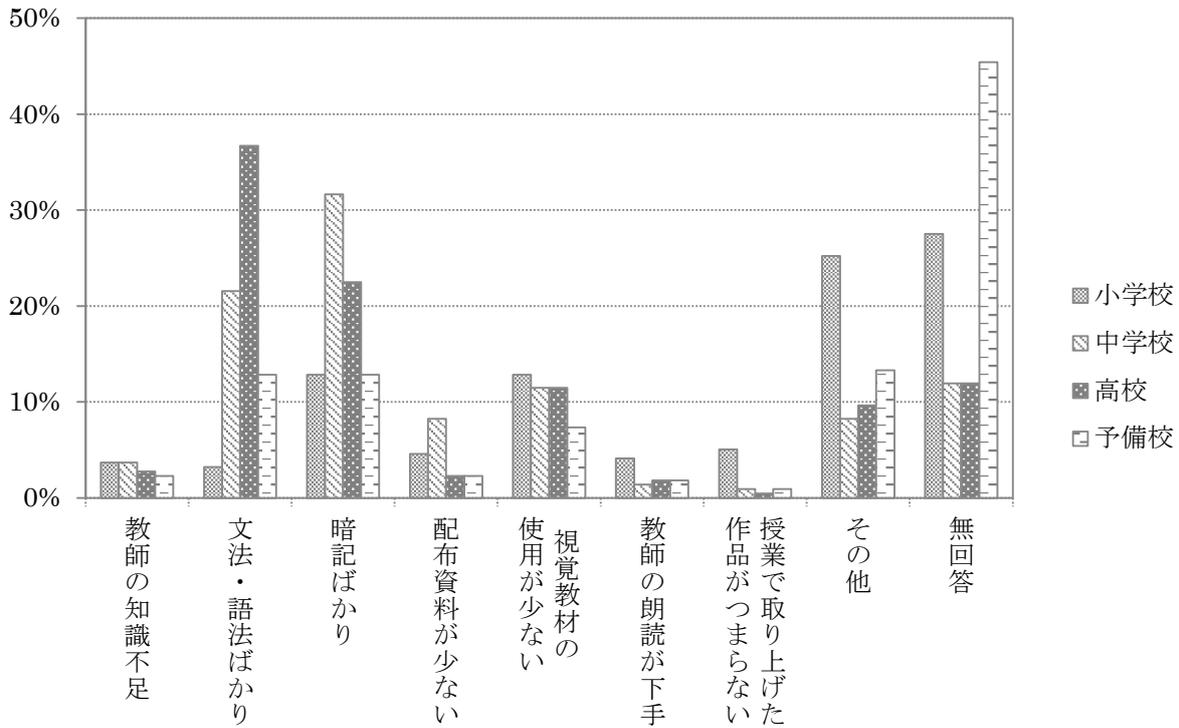
¹ 窪田祐樹「大学生の古典力調査Ⅶ～平成26年度横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程1年次生の古典に関する関心度調査～」『横浜国立大学国語教育研究』第41号2015年11月

² 角川古語大辞典編集委員会編『角川古語大辞典CD-ROM版』角川学芸出版2002年

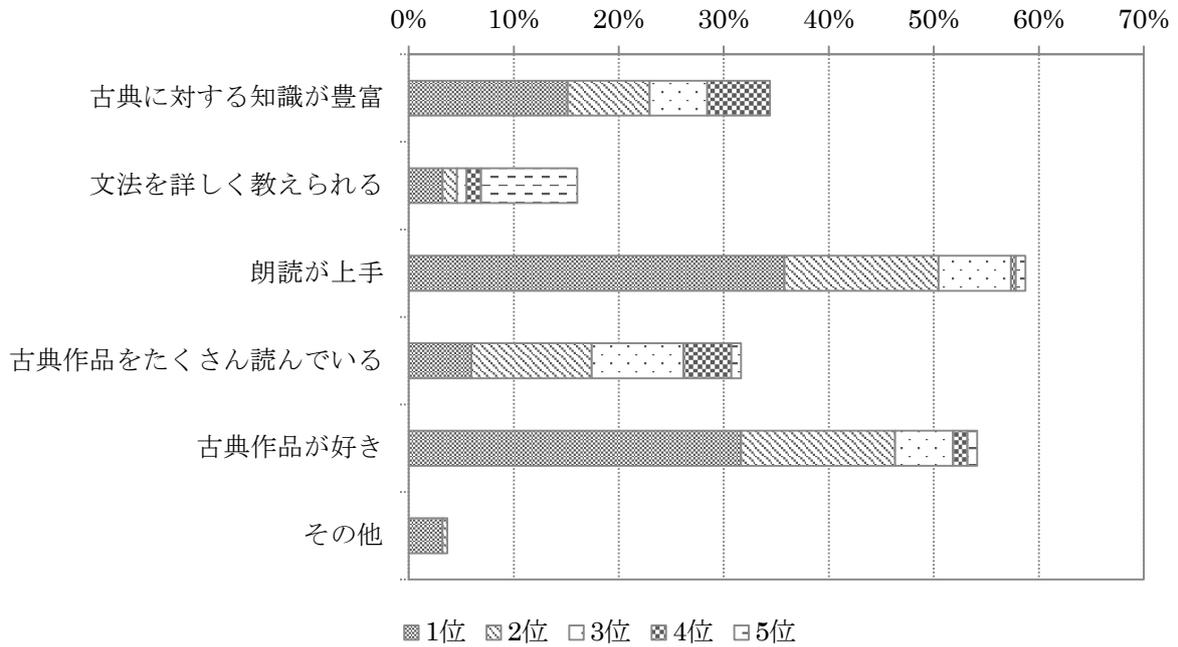
グラフ 2 小学校教科書掲載作品の既読状況



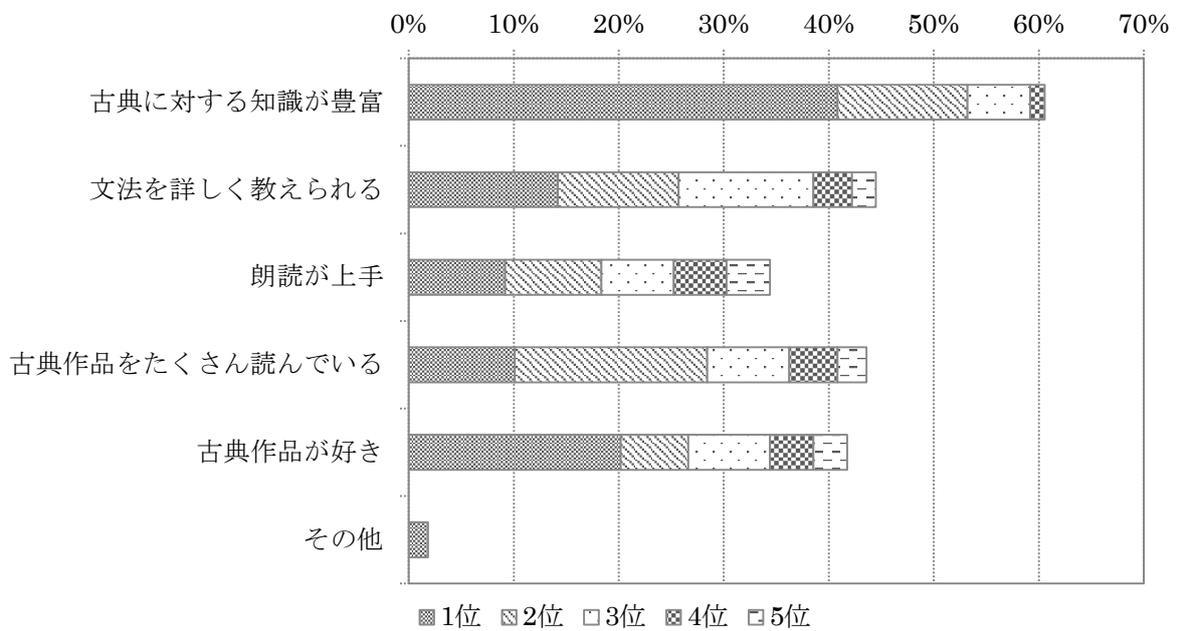
グラフ 5 古典の授業に対する不満



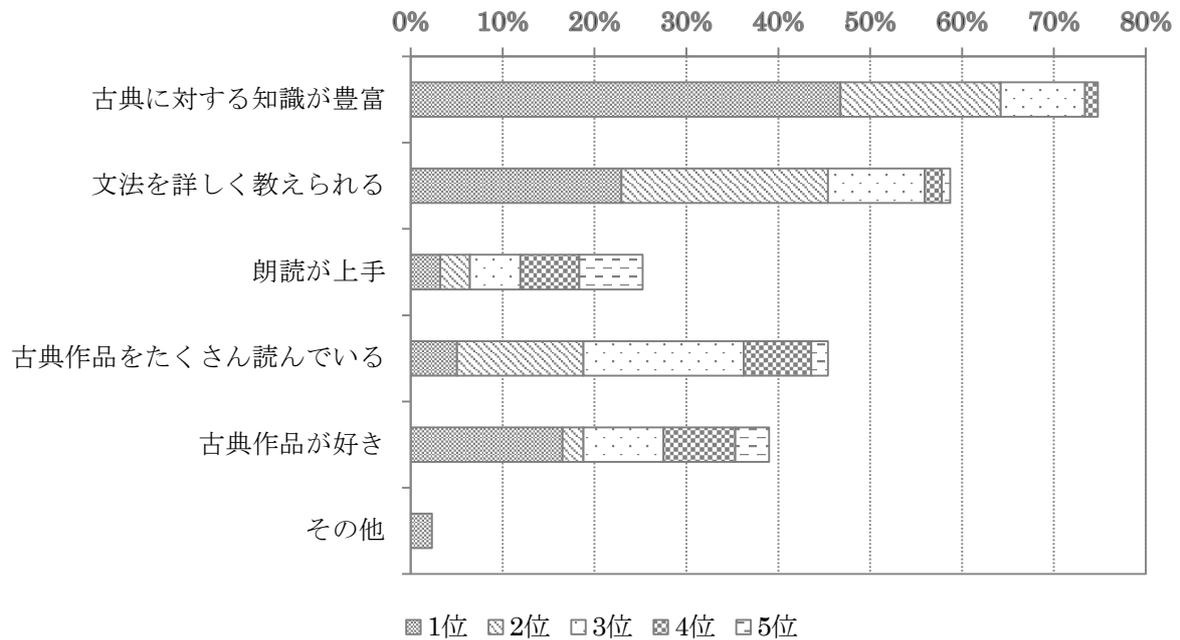
グラフ6
小学校の古典担当教師に求められる力



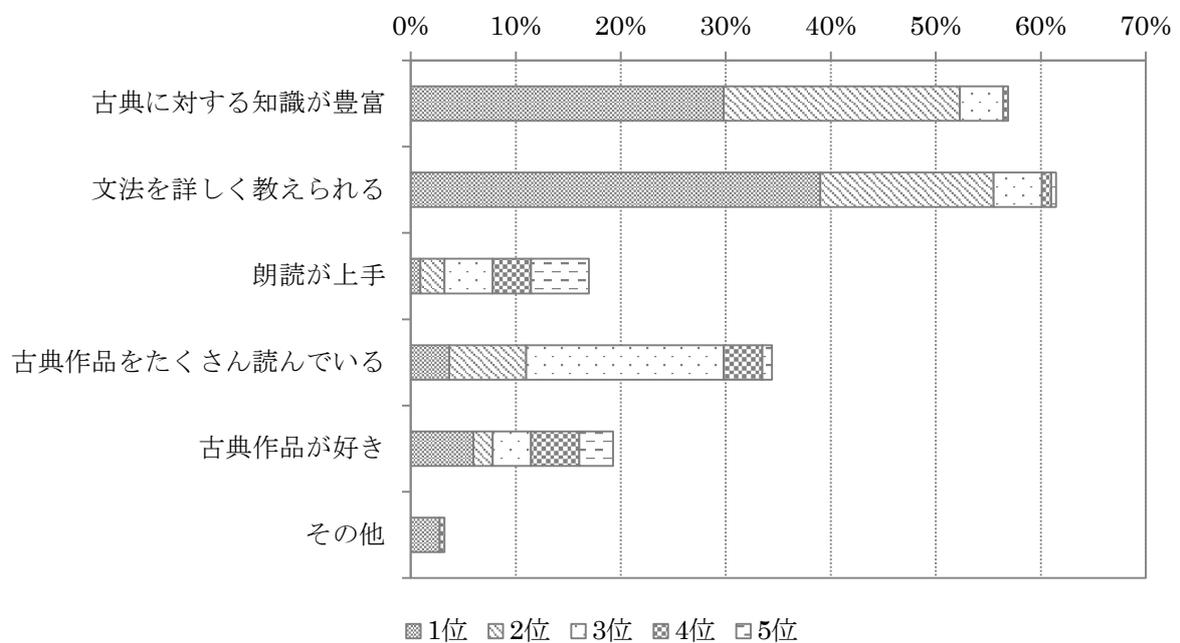
グラフ7
中学校の古典担当教師に求められる力



グラフ 8
高校の古典担当教師に求められる力



グラフ 9
予備校の古典担当教師に求められる力



【資料1】 質問紙

古典力アンケート

教員に必要とされる「古典力」開発プロジェクト：於 小教専国語

二〇一五年四月二日（火）

学籍番号（

）

I. A～Eの問題を解いて下さい。

A. 次の文章は、倉持皇子が架空の冒険談を語る部分である。以下の問いに答えなさい。

これやわが求むる^①山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金腕を持ちて、水をくみ歩く、これを見て、船より下りて、この山の名を^②何とか申す。と問ふ。女、答へてはいはく、これは、蓬莱の山なり。と答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

その山、見るに、^③さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金・銀・瑠璃色の水、山より流れいでたり。それには、色々の玉の橋渡せり。その辺りに、照り輝く木ども立てり。その中に、この取りてまうで来たりしは、^④いとわろかりしかども、のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで来たるなり。

問一、この作品の、ア「作品名」イ「成立時代」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二、傍線①「山ならむ」の意味を次から選り記号で答えなさい。

ア、山ではない。 イ、山であるべきだ。 ウ、山だろう。 エ、山であればいい。

問三、傍線②「何とか申す」の意味（現代語訳）を答えなさい。

問四、傍線③さらに登るべきやうなしの現代語訳を次から選り、記号で答えなさい。

ア、少しも登る理由がない。 イ、あまり登りたくもない。
ウ、これ以上登る必要はない。 エ、全く登ることが出来ない。

問五、傍線④「いとわろかりしかども」とありますが、その理由として最も適切なものを次から一つ選り、記号で答えなさい。

ア、謙遜して見せることで、真実味を加えたいと思っているから。
イ、本当に粗末な枝であるので、姫に申し訳ないと思っているから。
ウ、珍しい枝であるということと強調したいと思っているから。
エ、勝手に折ったので、その土地の人たちに申し訳ないと思っているから。

B. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

① 三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。まづ高館に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり。さても義臣すべつてこの城に籠もり、功名一時の叢となる。② 国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて、③ 時の移るまで涙を落としてはべりぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

卯の花に兼房みゆる白毛かな

曾良

問一、この作品の、ア「作品名」イ「作者名」ウ「成立時代」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二、傍線①「三代の栄耀一睡のうちにして」とあるが、これと似た内容を表している部分を、古文中から九字で抜き出しなさい。

問三、傍線②「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」とあるが、これは唐代の詩を引用したものである。この詩のア「題名」、イ「作者名」をそれぞれ書きなさい。

問四、傍線③「時の移るまで涙を落としてはべりぬ」について、次の問いに答えなさい

(一) どうして作者は涙を流したのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 藤原氏三代の栄華を目の当たりにしたから。

イ 念願がかなって、義経が過ぎた平泉にくることができたから。

ウ 自然の悠久さに比べて、人間の営みははかないと感じたから。

エ 江戸から随分遠いところまで旅をしたことを実感したから。

(三) 「はべり」について、ア「敬語の種類」と、イ「敬意の方向」(a)「誰から」(b)「誰へ」の形でそれぞれ答えよ。

C. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

孔子^{こうし}の^①、弟子どもを具して、道をおはしけるに、垣より、馬、頭^{かしら}をさしいでてありけるを見て、「牛よ」とのたまひければ、弟子ども^④あやしと思ひて、あるやうあらむと思ひて、道すがら、心を見むと思ひけるに、顔回^{がんかひ}といひける第一の弟子^⑤の、一里を行きて、^②心得たりけるやう、「日よみの午^{うま}といへる文字の、頭さしいだして書きたるをば、牛といふ文字になれば、人^③の心を見むとて、のたまふなりけり」と思ひて、問ひ申しければ、「しか、さなり」とぞこたへたまひける。

(源俊頼「俊頼髓脳」より)

問一、傍線①「あやしと思ひて」とはどういう意味か、次から一つ選んで答えなさい。

- ア、気味が悪いと思つて イ、不思議に思つて
ウ、不安に思つて エ、珍しいと思つて

問二、傍線②「心得たりける」とあるが、顔回は孔子がどのように考えたと理解したのか。それを説明した次の文の□に入る適当な言葉を、三十文字以内で書きなさい。

・馬が垣根から頭を出していたことと、□ことを結びつけた。

問三、傍線③「見む」の意味を次から選び記号で答えなさい。

- ア、見ない イ、見るべき ウ、見るだろう エ、見よう

問四、傍線④⑤の「の」の用法が違うものを記号で答えなさい。

D. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

「ものの①あはれは秋こそまされ」と、人ごとに言ふめれど、それもさるものにて、今ひとときは心も浮きたつものは、春のけしきにこそあめれ。鳥の声などもことの外に春めきて、のどやかな日影に、かきね 牆根の草萌えいづるころより、やや春深く霞みわたりて、花も②やうやうけしきだつほどこそあれ、折しも雨風うちつづきて、心あわただしく散り過ぎぬ。青葉になり行くまで、③よろづにただ心をのみぞ悩ます。

問一、この作品の、ア「作品名」イ「作者名」ウ「成立時代」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二、傍線①「あはれ」、傍線②「やうやう」、傍線③「よろづ」の意味をそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- ①「あはれ」＝(ア すばらしさ イ 趣深さ ウ 情けなさ エ 悲しさ)
②「やうやう」＝(ア だんだん イ すっかり ウ たまたま エ まったく)
③「よろづに」＝(ア いたづらに イ 万事に ウ 無意味に エ ひたすらに)

問三、この文で述べられている内容を表した文として、最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア よろづのことは、月見るにこそ、なぐさむものなれ。
イ をりふしの移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。
ウ おこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。
エ しばし旅だちたるこそ、目覚むるこちすれ。

E. 次の問いに答えなさい。

問一、次の語句の読み方と、いつの季節を表す季語であるか「春・夏・秋・冬」の中からそれぞれ選び、答えなさい。

【螢 ・ 霧 ・ 霞 ・ 葉玉 ・ 東風 ・ 野分 ・ 五月雨】

問二、「五月」の旧暦(異名)は、「皐月(さつき)」だが、その他一月～十二月の旧暦(異名)は、何と言つか。それぞれ、漢字と読みを答えなさい。

Ⅱ. 【一】～【七】の質問にお答え下さい。

【一】大問ⅠのA・B・C・Dについて、それぞれ以下の質問に答えて下さい。

1、問題文に使用された古典文学作品を読んだことがありますか。

- ①はい ②いいえ

2、1で「①はい」と答えた方にお聞きします。読んだことのある作品それぞれについて、次の中から当てはまるものを選んで数字で答えて下さい。

- Ⅰ. いつ ①小学校 ②中学校 ③高校 ④浪人 ⑤大学 ⑥その他
Ⅱ. 機会 ①授業 ②受験勉強 ③趣味 ④その他
Ⅲ. 方法 ①原文 ②注釈付き ③現代語訳付き ④現代語訳のみ ⑤その他
Ⅳ. 感想 ①面白かった ②つまらなかった ③普通

【二】左は、小学校教科書に取り上げられている作品を抜粋したものです。各作品についてあてはまるものを選んで答えて下さい。

ア、桃太郎 イ、金太郎 ウ、八岐大蛇 エ、笠地蔵 オ、猿蟹合戦 カ、三枚のお札
キ、因幡の白兔 ク、鶴の恩返し ケ、海さち山さち コ、泣いた赤鬼 サ、花咲爺さん
シ、源氏物語 ス、枕草子 セ、平家物語 ソ、春暁

- ① 読んだことがある。(どんな作品だったか他人に説明できる)
② 読んだことはあるが、内容はよく覚えていない。
③ 読んだことはないが、作品名は知っている。
④ 読んだことも、作品名も知らない。

【三】古典文学と漢文学それぞれについて、好きですか。

- ①大好き ②好き ③普通 ④嫌い ⑤大嫌い

【四】各時代(小学校、中学校、高校、学習塾・予備校)に受けた古典の授業で悪かったものについて、当てはまるものを選んで、要因として大きいと思う順番に優先順位をつけて数字で答えて下さい。(⑦を選択した場合は作品名も答えて下さい。)

- ①教師の知識不足(質問しても答えられない) ②文法、語法ばかり ③暗記ばかり
④配布資料が少ない ⑤視覚教材(写真、イラストなど)の使用が少ない ⑥教師の朗読が下手
⑦授業で取り上げた作品がつまらない ⑧その他()

【五】各時代(小学校、中学校、高校、学習塾・予備校)の古典を担当する教師に求められている力は何だと思えますか。当てはまるものを選んで、大事だと思う順番に優先順位をつけて、数字で答えて下さい。

- ①古典作品に対する知識が豊富 ②文法を詳しく教えられる ③朗読が上手
④古典作品をたくさん読んでいる ⑤古典作品が好き ⑥その他()

【六】自分が教師になったとして、古典の授業をする際、不安な点があったら教えて下さい。

- ①そもそも古典が好きではない ②文法がよく分からない ③古典作品をあまり読んでない
④世界観がよく分からない ⑤古文を声に出して読むのが苦手 ⑥その他()

【七】今後、古典の授業を自信を持って行うために、開催してほしい講座や、支援してほしい内容について教えてください。

以上です。ご協力ありがとうございました。